

名古屋市場における広葉樹用材の価格について

菅 原 聡

信州大学農学部 森林経理学研究室

はじめに

針葉樹用材の流通や価格については、これまでもいろいろと調査がおこなわれていて、その実態については比較的明らかにされている。しかし、広葉樹用材についてはその実態はそれほど明らかにされていない。それで、私達は文部省科学研究費補助金を受けて、昭和57年度と昭和58年度にわたって、「広葉樹用材の流通および価格動向に関する研究（研究課題番号5736008）」をおこなった。本報告はその研究の一部である「名古屋市場での広葉樹用材価格調査」の結果をとりまとめたものである。

この名古屋においての調査に際して、愛知県庁林務部の方がた、ならびに名古屋広葉樹業界の方がたに多大の御協力をいただいたことに対して、心から謝意を表する次第である。

1. 主要広葉樹用材の価格

名古屋市場での国内産広葉樹用材の価格の解析のための資料として、昭和57年1月29日に「名古屋広葉樹協同組合」によって主催された広葉樹用材の原木市である「第46回全国優良広葉樹展示会」において取引された主要広葉樹用材の原木単価を用いた。

まず、この広葉樹用材原木市に出品された極数を樹種別に整理しておくのと表1のようである。この名古屋の広葉樹用材原木市に出品されているのは、一般に「優良材」といわれているものであり、高単価のものである。出品されたものはすべて国内産材であり、そのほとんどが1本積みの極であり、1本ごとに値がつけられて取引されている。原木が2本以上まとめて極積みされているものはきわめて少なく、また、このように2本以上で極積みされたものには、高単価で取引されたものは少ない。

名古屋の広葉樹用材原木市で、主として1本単位で取引されている理由として、

- イ) 国内産広葉樹用材の資源量が少なくなってきたこと
- ロ) それぞれの材に強い個性があり、その個性が評価されること
- ハ) 材の利用が高度化したこと

などがあげられている。

名古屋の広葉樹用材原木市には、北海道から多く出材されており、そのことは、セン、ナラ、タモ、マカバなどの北海道材が非常に多いことから知られよう。なお、広葉樹用材原木市にゴヨウマツ・天然カラマツ・イチイ・アカマツ・クロエゾ・アカエゾなどの針葉樹材も出品されており、“広葉樹用材的”に取引されている。

表1 広葉樹用材原木市への出品極数
(1982.1.29 名古屋)

樹種	出品極数		
	1本積の極	2本積の極	計
セ　　ン	409	81	490
ナ　　ラ	400	55	455
タ　　モ	396	48	444
マ　カ　バ	258	44	302
ニ　　レ	138	24	162
カ　ツ　ラ	107	35	142
ケ　ヤ　キ	110	15	125
ア　サ　ダ	73	51	124
ホ　オ　ノ　キ	56	38	94
キ　ハ　ダ	55	22	77
カ　エ　デ	31	27	58
ミ　ズ　メ	23	9	32
シ　ュ　ウ　リ	8	23	31
ウ　ダ　イ　カ　ン　バ	8	15	23
ク　　　　リ	15	5	20
ク　ル　ミ	14	3	17
ト　チ　ノ　キ	11	1	12
エ　ン　ジ　ュ	2	6	8
雑　カ　バ	7	1	8
サ　ク　ラ	6	1	7
シ　オ　ジ	6	1	7
シ　ナ　ノ　キ	2	4	6
ナ　ラ　大　割	0	1	1
ナ　ラ　・　セ　ン		1	1
ゴ　ヨ　ウ　マ　ツ	—	—	22
天　然　カ　ラ　マ　ツ	—	—	17
イ　チ　イ	—	—	12
ア　カ　マ　ツ	—	—	6
ク　ロ　エ　ゾ	—	—	4
ア　カ　エ　ゾ	—	—	3

1 樹種別原木単価

表1で1本積み極の出品数の多いセン・ナラ・マカバ・ケヤキ・アサダ・ホオノキ・キハダ・カエデ・ミズメについて、直径を基準として本数をほぼ3等分して、小径材（I）・中径材（II）・大径材（III）とし、それぞれの直径範囲・平均単価・最高単価・最低単価を示したのが表2である。また、1本積み極の出品数の少ないクリ・トチノキ・クルミ・シオジ・サクラ・シュウリ・エンジュについて、全部をこみにして、直径範囲・平均単価・最高単価・

表2 広葉樹用材の樹種別単価 (1) (1982.1.29 名古屋)

樹種	階級	直径 (cm)	平均単価 (千円/m ²)	最高価格 (千円/m ²)	最低価格 (千円/m ²)
セ ン	I	42~56	109	261	37
	II	58~64	121	314	43
	III	66~100	135	259	56
	計		122	314	37
ナ ラ	I	36~52	128	365	36
	II	54~60	137	503	21
	III	62~98	144	556	37
	計		136	556	21
タ モ	I	32~46	119	330	51
	II	48~52	151	556	41
	III	54~72	163	460	41
	計		141	556	41
マ カ バ	I	40~48	116	229	46
	II	50~54	151	390	56
	III	56~88	166	680	51
	計		153	680	46
ニ レ	I	36~50	77	181	30
	II	52~60	103	209	36
	III	62~88	101	220	30
	計		93	220	30
カ ツ ラ	I	50~58	58	82	36
	II	60~68	64	96	36
	III	70~96	80	129	55
	計		68	129	36
ケ ヤ キ	I	28~44	214	1150	51
	II	46~56	246	689	71
	III	58~98	402	1112	73
	計		281	1150	51
ア サ ダ	I	34~40	64	123	35
	II	42~48	100	146	34
	III	50~58	98	182	58
	計		87	182	34
ホ オ ノ キ	I	34~38	70	106	50
	II	40~48	111	181	58
	III	50~76	112	231	70
	計		100	231	50
キ ハ ダ	I	30~44	95	139	56
	II	46~54	112	181	62
	III	56~86	121	212	55
	計		108	212	55
カ エ デ	I	26~42	41	62	34
	II	44~48	59	120	20
	III	50~74	96	169	10
	計		68	169	10
ミ ズ メ	I	32~40	71	98	44
	II	42~50	71	98	44
	III	52~62	103	141	56
	計		81	141	44

表3 広葉樹用材の樹種別単価 (2)

(1982. 1. 29 名古屋)

樹種	直径 (cm)	平均単価 (千円/㎡)	最高単価 (千円/㎡)	最低単価 (千円/㎡)
ク　リ	34～80	124	269	28
トチノキ	24～134	55	85	30
ク　ル　ミ	32～54	95	396	32
シ　オ　ジ	36～50	65	93	41
サ　ク　ラ	30～50	73	152	20
シュウリ	22～46	68	113	37
エンジュ	18～26	213	301	110

最低単価を示したのが表3である。

表2および表3から、広葉樹用材原木の取引単価が樹種によって大きく異なっていることが知られるが、それをまとめておくと次のようである。

- イ) 樹種によって平均単価に大きな差異がみられ、ケヤキは群を抜いて高く、もっとも低いトチノキとの差はきわめて大きい。
- ロ) 最高単価も樹種によって大きな差異があり、ケヤキには非常に高いものがあるし、トチノキでは最高単価といってもそれほど高くない。
- ハ) 最低単価をみると、カエデ・サクラ・ナラなどにはきわめて低いものがあるが、エンジュでは最低単価が10万円をこえている。

このように、平均単価・最高単価・最低単価において、樹種によって原木単価には、大きな差異が認められるが、また、それ以上に、原木単価のちらばり方も樹種によってまったく異なっている。ケヤキ・ナラ・セン・マカバ・ニレ・アサダ・オホノキ・キハダ・カツラの9樹種について原木単価のちらばり方を図示したのが図1～図10である。

これらの広葉樹用材の原木単価のちらばり方の特徴的なものとして、ケヤキ・ナラ・マカバ・アサダ・キハダをとりあげることができ、それぞれの特徴を示しておく次のようである。

イ) ケヤキ

図1および図2においてケヤキの m^3 当り単価の45万円までを示しておいたが、ケヤキの場合には115万円までに分布がおよんでいる。図1および図2をみると、 m^3 当り単価35万円以下はほぼ一様なちらばりを示しており、35万円以上では本数が1/4程度に減りながらも一様なちらばりを示しながら115万円にまでおよんでいる。すなわち、ケヤキ型というのは、非常に分布域が広く、そしてほぼ一様なちらばっているものである。

ロ) ナ　ラ

図3においてナラの m^3 当り単価23万円までを示しておいたが、ナラの場合には56万円にまで分布がおよんでいる。図3をみると、 m^3 当り単価5万円～7万円に大きなピーク、18万円にちいさなピークがある。すなわち、ナラ型というのは、広い分布域のなかで2つのピーク

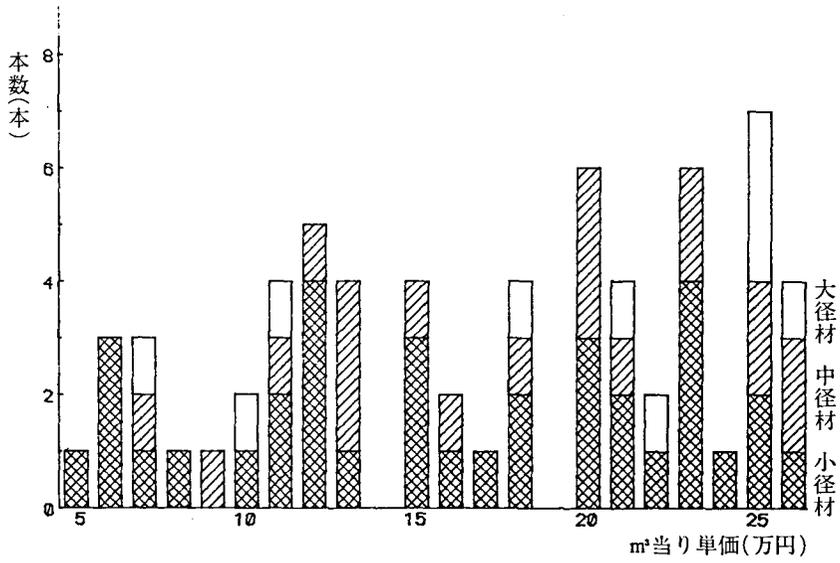


図1 ケヤキ用材の取引単価 (1)

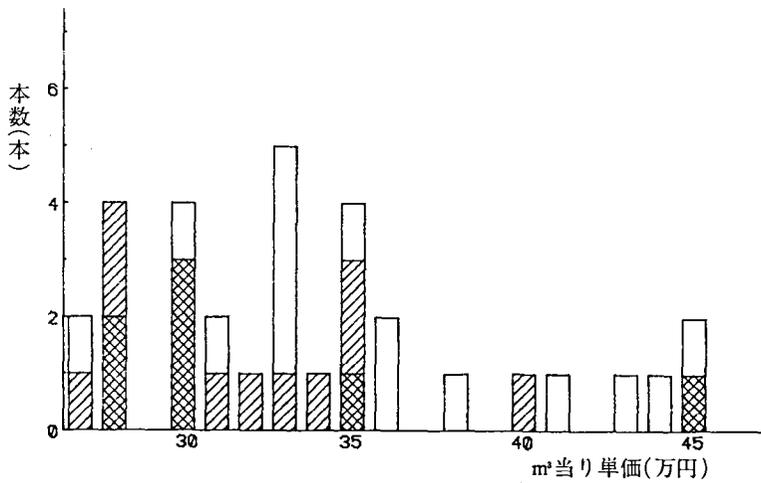


図2 ケヤキ用材の取引単価 (2)

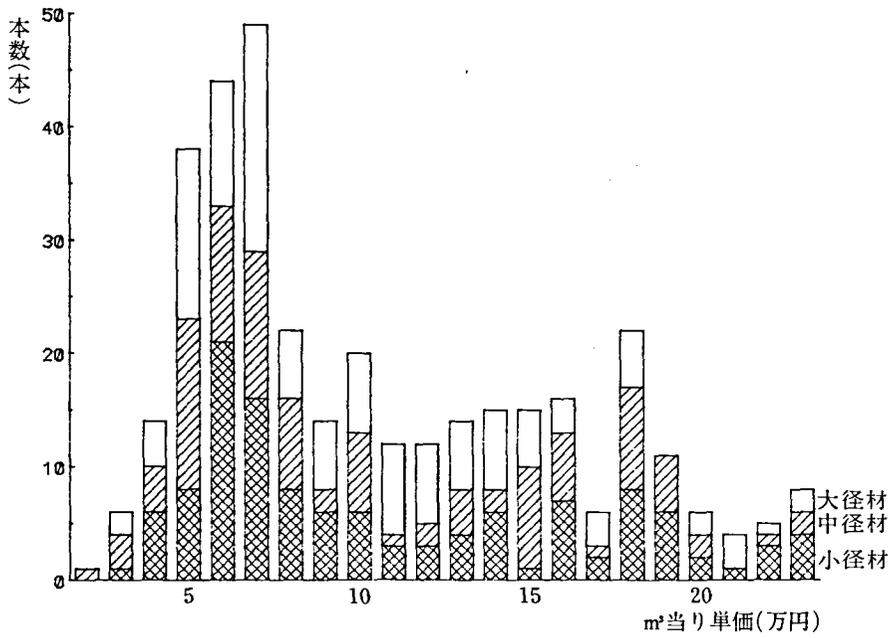


図3 ナラ用材の取引単価

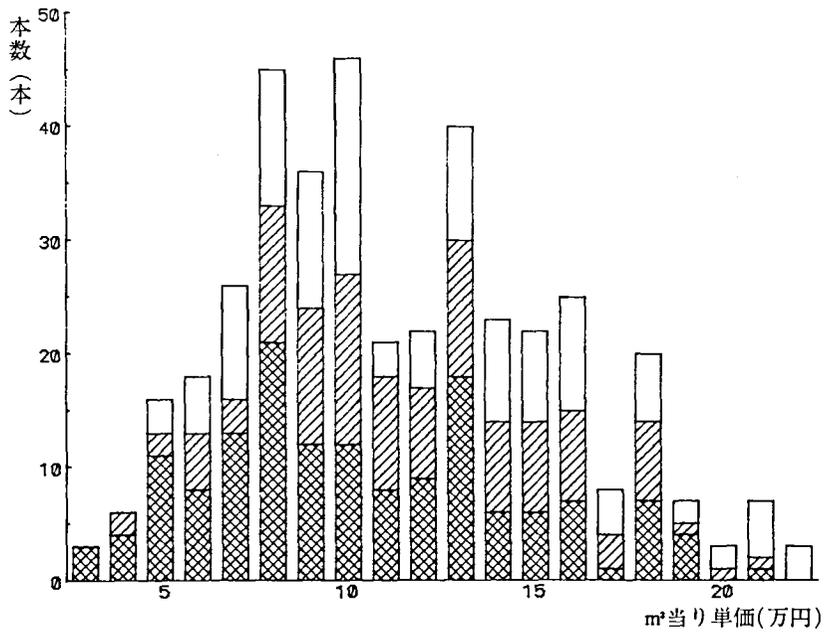


図4 セン用材取引単価

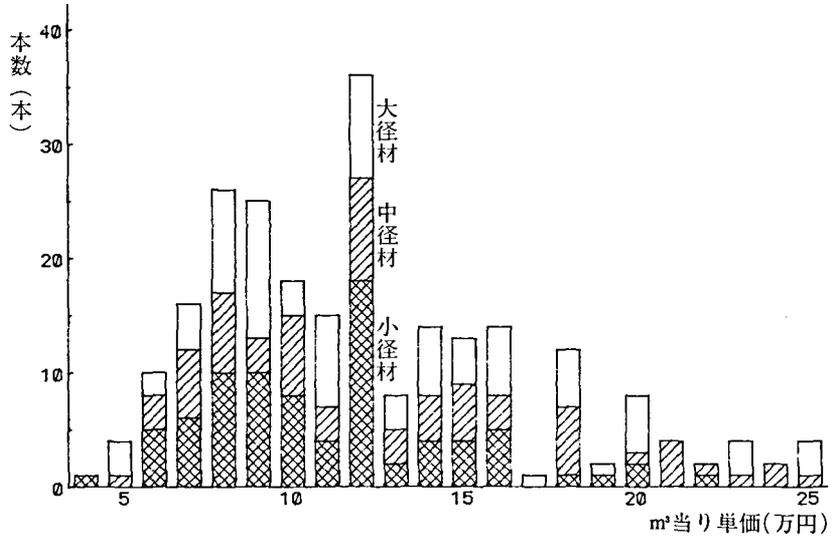


図5 マカバン用材取引単価

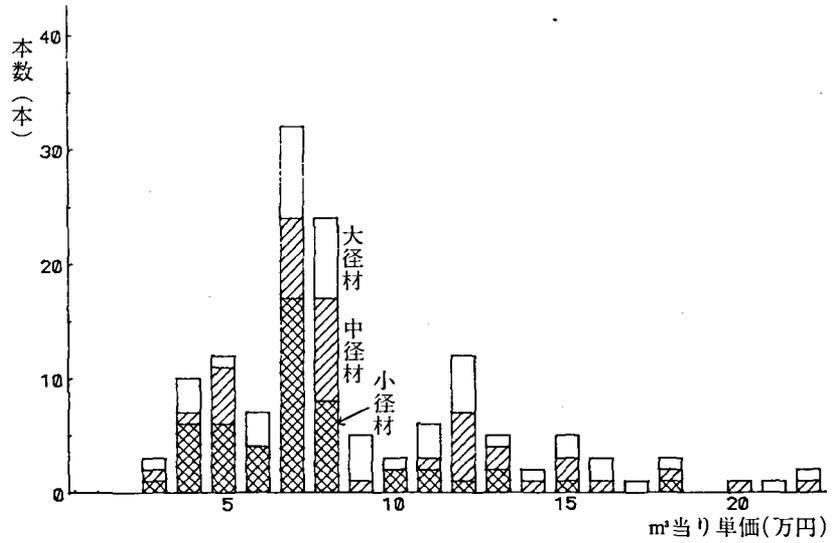


図6 ニレ用材取引単価

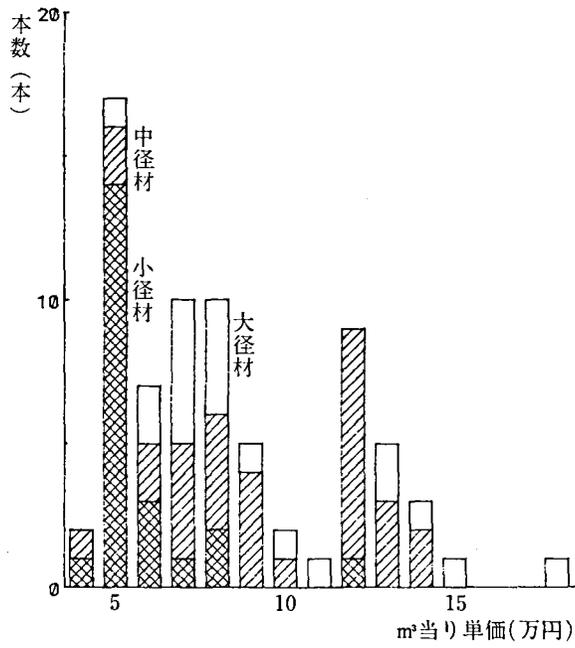


図7 アサダ用材取引単価

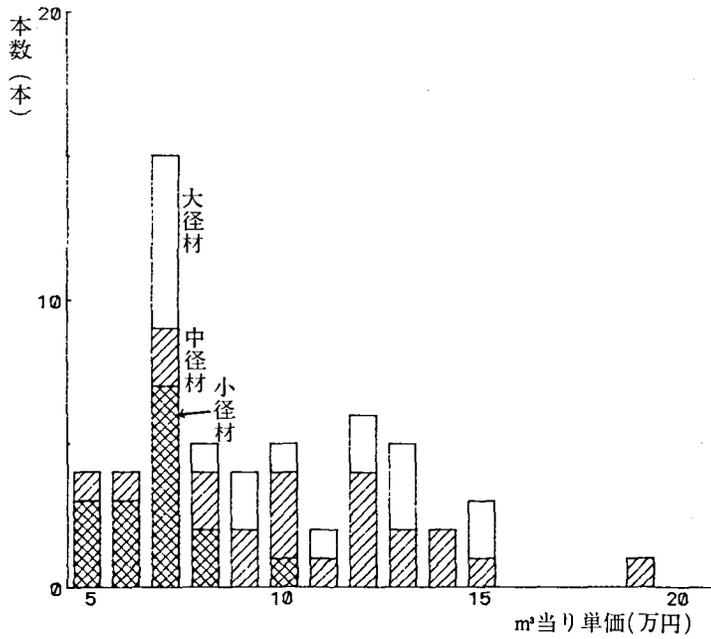


図8 ホウノキ用材取引単価

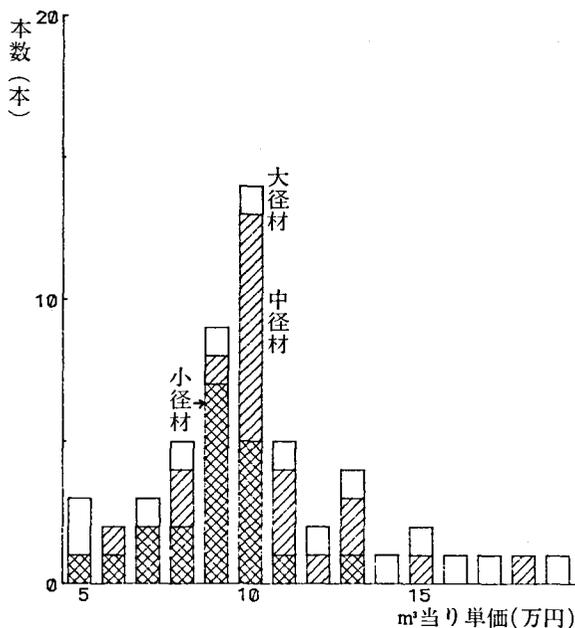


図9 キハダ用材取引単価

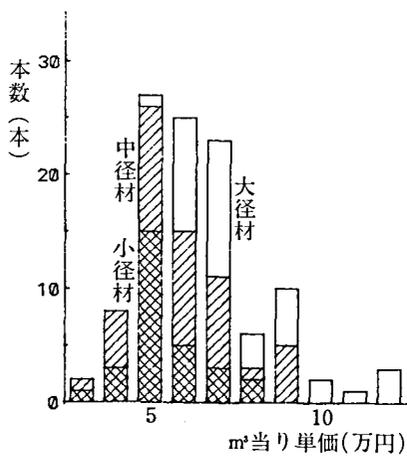


図10 カツラ用材取引単価

クを示しているものである。

ハ) マカバ

図5においてマカバのm³当り単価25万円までを示しておいたが、マカバの場合には68万円にまで分布がおよんでいる。図5をみると、m³当り単価8万円~12万円にピークがある。すなわち、マカバ型というのは、広い分布域の中で1つのピークを示しているものである。

ニ) アサダ

図7では離れて分布しているm³当り単価23万円が省略されている。図7をみると、m³当り単価5万円~8万円と12万円との2つのピークがある。すなわち、アサダ型というのは、狭い分布域のなかで2つのピークを示しているもの

である。

ホ) キハダ

図9ではm³当り単価9万円・10万円にピークがみられる。すなわち、キハダ型というのは、狭い分布域のなかで1つのピークを示しているものである。

2 径級別原木単価

比較的資料数が多く、かつ原木単価のちらばり幅の広いケヤキ・ナラ・マカバについて、

表4 ケヤキ用材の径級別・単価別本数

径級(cm) 単価(万円)	25	35	45	55	65	75	85	95	計
5	0	2	3	1	0	0	0	0	6
10	1	2	4	3	1	0	0	0	11
15	0	4	8	3	0	0	0	0	15
20	0	1	8	4	2	0	0	0	15
25	0	1	9	7	2	1	0	0	20
30	0	0	7	3	1	0	0	0	11
35	0	0	2	5	5	1	0	0	13
40	0	0	1	1	1	0	0	0	3
45	0	0	1	0	3	0	0	0	4
50	0	0	0	0	2	0	0	0	2
55	0	0	0	0	0	2	0	0	2
60	0	0	0	0	1	0	0	0	1
65	0	0	0	0	2	0	0	0	2
70	0	0	0	1	0	1	0	0	2
75	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80	0	0	0	0	0	0	0	0	0
85	0	0	0	0	0	1	0	0	1
90	0	0	0	0	0	0	0	0	0
95	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100~	0	0	1	0	0	0	0	1	2
合計本数(本)	1	10	44	28	20	6	0	1	
平均単価(千円)	76	132	237	252	383	548	0	1112	

表5 ナラ用材の径級別・単価別本数

径級(cm) 単価(万円)	35	45	55	65	75	85	95	計
0	0	0	1	0	0	0	0	1
5	1	21	51	39	12	9	0	133
10	0	20	25	27	11	5	1	89
15	0	10	25	22	7	2	0	66
20	0	5	26	19	2	1	0	53
25	0	2	13	9	1	0	0	25
30	0	1	5	7	1	0	0	14
35	0	0	5	3	2	1	0	11
40	0	0	0	0	0	0	0	0
45	0	0	1	2	1	0	0	4
50	0	0	1	2	0	0	0	3
55	0	0	0	0	1	0	0	1
合計本数(本)	1	59	153	130	38	18	1	
平均単価(千円)	71	105	141	147	140	102	115	

表6 マカバン用材の径級別・単価別本数

径級(cm) 単価(万円)	45	55	65	75	85	計
5	9	10	1	0	1	21
10	38	45	15	5	0	103
15	30	33	8	0	2	73
20	4	16	7	1	0	28
25	1	8	3	1	0	13
30	0	5	3	0	0	8
35	0	2	1	0	0	3
40	0	3	0	0	0	3
45	0	2	0	0	0	2
50	0	0	1	0	0	1
55	0	0	0	0	0	0
60	0	0	0	0	0	0
65	0	0	0	0	0	0
70	0	0	0	1	0	1
75	0	0	0	0	0	0
80	0	0	0	0	0	0
85	0	1	0	0	0	1
90	0	0	0	0	0	0
95	0	0	0	0	0	0
100	0	1	0	0	0	1
合計本数 (本)	82	126	39	8	3	
平均単価(万円)	116	169	169	201	117	

径級別・単価別に整理してみると表4～表6のようである。

イ) ケヤキの場合には、25cm・35cm 径級、45cm・55cm 径級、65cm 径級、75cm 径級になるしたがって原木単価は高くなっている。

ロ) ナラやマカバの場合には55cm・65cm・75cm 径級の原木単価が高く、それ以上の太さでも、それ以下の太さでも安くなっている。

ことがこれらの表から知ることができる。他の樹種の資料をみても、広葉樹用材の原木単価は、一般に径級が太くなるにつれて高くなる傾向が認められるが、太ければ太い方がよいというものでもなく、50cm～80cm 程度の径級のものに高値がつけられていることが多い。

3 材長別原木単価

ケヤキ・ナラ・マカバについて、材長別・単価別に整理してみると表7～表9のようである。

イ) ケヤキの場合には、材長と原木単価との明確な関係は認められない。

ロ) ナラの場合には5.5m や5.6m といった長い材の原木単価は高くなっている。

ハ) マカバの場合には、材長と原木単価との関係ははっきり認められないが、5.5m の材の原木単価は高くなっている。

表7 ケヤキ用材の材長別・単価別本数表

材長(m) 単価(万円)	1.5	2.5	3.5	4.5	5.5	6.5	7.5	8.5	9.5	計
5	1	2	2	1	0	0	0	0	0	6
10	0	7	3	1	0	0	0	0	0	11
15	0	4	1	4	5	1	0	0	0	15
20	0	3	2	5	4	0	0	0	1	15
25	1	5	3	5	1	2	3	0	0	20
30	0	0	4	3	1	2	1	0	0	11
35	0	1	5	5	1	0	1	0	0	13
40	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
45	0	1	0	1	0	1	0	1	0	4
50	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
55	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
60	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
65	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
70	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
75	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
85	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
95	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100~	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
合計本数 (本)	2	23	24	31	15	7	6	1	1	
平均単価(千円)	172	176	312	320	272	307	375	439	222	

表8 ナラ用材の材長別・単価別本数

材長(m) 単価(万円)	1.5	2.5	3.5	4.5	5.5	6.5	計
0	0	0	1	0	0	0	1
5	0	54	65	14	0	0	133
10	0	33	43	12	1	0	89
15	1	20	29	14	1	1	66
20	0	15	21	16	1	0	53
25	0	9	11	3	1	1	25
30	0	6	4	2	2	0	14
35	0	3	7	1	0	0	11
40	0	0	0	0	0	0	0
45	0	0	3	1	0	0	4
50	0	0	1	0	2	0	3
55	0	1	0	0	0	0	1
合計本数 (本)	1	141	185	63	8	2	
平均単価(千円)	145	126	133	146	285	201	

表9 マカバン用材の材長別・単価別本数

材長(m) 単価(万円)	1.5	2.5	3.5	4.5	5.5	6.5	計
5	1	14	3	3	0	0	21
10	1	52	38	12	0	0	103
15	1	44	21	4	1	2	73
20	0	13	9	4	1	1	28
25	0	9	3	1	0	0	13
30	0	3	4	0	1	0	8
35	0	1	1	1	0	0	3
40	0	2	0	0	1	0	3
45	0	0	1	0	1	0	2
50	0	0	1	0	0	0	1
55	0	0	0	0	0	0	0
60	0	0	0	0	0	0	0
65	0	0	0	0	0	0	0
70	0	1	0	0	0	0	1
75	0	0	0	0	0	0	0
80	0	0	0	0	0	0	0
85	0	0	1	0	0	0	1
90	0	0	0	0	0	0	0
95	0	0	0	0	0	0	0
100	0	1	0	0	0	0	1
合計本数(本)	3	140	82	25	5	3	
平均単価(千円)	104	148	159	130	300	160	

ことがこれらの表から知ることができる。他の樹種の資料をみても、広葉樹用材の原木単価は、長材の方が高いというわけではないのである。

2. 主要広葉樹用材の価格形成

1 用途による価格形成

広葉樹用材の用途はきわめて多い。林材新聞社刊の「木材の消費層を探る」¹⁾によると、広葉樹用材は、木製玩具・下駄・ミシンテーブル・和ダンス・軽車輛・電線ドラム・キャビネット・洋家具・木製インテル・額縁・ムトン材・太鼓・鉛筆・和家具・木造船・農機具・サラダボール・木管・経木・スポーツ用具・木箱・堅木製品・弾薬箱・パチンコ機・卓球台・フラッシュドア・ビール箱・鋳物木型・洋樽・腕木・鏡台・茶箱・張り板・雑木タンス・コケシ・割箸・ベッド・マッチ・魚箱・ボデー・台所用品・ハーモニカ・鉄道車輛材・果物箱・野菜箱・ブラシ・ツキ板・三味線・靴木型・漆器・碁盤・将棋盤・将棋の駒・定規・こたつやぐら・柱時計・包装材・柵・パレット・紡織機・衣紋掛・看板・ペン軸・印台・脚立・踏

台・梱包材・アイロン台・木工挽物・木彫装飾品・洗濯板・テントポール・木櫛・しゃもじ・裁板などと、まったく種々雑多の用途に利用されており、それらの意味においても、広葉樹は雑木と呼ばれていた。

ところが、最近になって工業化が進み、多くの分野で工業的材料による代替がなされるようになってしまい、そしてさらに生活の都市化にともなって、新しい生活に適したもののしか利用されなくなってしまい、広葉樹用材の用途はかなり狭められている。そして、工業化の流れのなかで、木材も工業的資材や工業的原料の意味を強く担うようになり、“パルプ用”や“チップ用”などの原料用が大きな役割を占めるようになった。今では、広葉樹用材は“建築用”・“家具用”・“木工用”・“ツキ板用”などに主として利用されており、そのことによって、利用される樹種も限られるようになってきている。

名古屋で広葉樹用材を取扱っている各業界に対して昭和57年度に「利用樹種についての聴き取り調査」をおこなったが、その結果から各業界ごとに現在利用されている国内産広葉樹の種類を整理しておく次のようである。

「製材業者」は主として“建築用”広葉樹用材を取扱っており、“造作用”のタモ・トチノキ・カエデ・キハダ・エンジュ・サクラ・カバ・ケヤキ・ニレなどや“土台用”のクリなどを用いている。

「木工業者」はカツラ・ホオノキ・サクラ・キハダ・クワ・カエデ・トチノキ・シナノキ・セン・タモ・キリ・ナラ・カバ・ハンノキ・ブナ・カシ・シイなどを利用している。

「ツキ板メーカー」はナラ・タモ・セン・マカバ・ニレ・ケヤキ・エンジュ・キリ・シナノキなどを用いている。

「家具メーカー」はある程度まとまっている樹種しか利用していなく、ナラ・ブナ・セン・ニレ・マカバなどに限られている。

現在、広葉樹用材の用途が狭められたというもののなお用途は広いのであり^{2,3)}、このような用途の多様性がまず広葉樹用材価格の形成に大きな作用をおよぼしている。すなわち、それらの用途のうちで原木が高価であっても耐えられる用途があり、安価な原木でないと対応できない用途もあるから、広葉樹用材ではきわめて幅広い原木価格のちらばりがみられるのである。そして、それぞれの用途に応じて、それに利用できる樹種に対して、それに対応した原木価格がつけられているのである。換言すれば、広葉樹用材を購入する人は、自分の用途に利用できる原木だけに対して、その用途に耐えられる単価をつけているのである。

そうであるから、それを樹種の側からみると、いろいろな用途に向けられ、それがきわめて高価なものから安価なものにまでわたっているようなケヤキでは、きわめて幅広いちらばりの原木単価を示すし、キハダのようにその用途が限られているものでは幅狭いちらばりの原木単価を示すのである。

広葉樹のなかには、いろいろの用途に向けられているものや、きわめて限られた用途にしか対応できないものがあるが、それらをすべて正確に知ることはかなり難しい。それに、広葉樹用材の場合、一般に針葉樹用材に比べると少量ずつしか利用されていないので、よけいにそれらの用途を正確に知ることは難しい。そのようなことから、広葉樹用材価格はわかりにくいとされているのであろう。

さらに、広葉樹用材価格をわかりにくいものに行っていることがある。それは広葉樹用材の

利用が時代により異なり、また、好まれる材が時の流れとともに移り変わることである。そして、それは家具の流行によるところが大きい。たとえば、最近までワインカラーの家具やカリンの家具がもてはやされていたが、今ではナラやニレなどが高値を呼ぶようになってきている。木目の目立つものが流行するときには、タモ・セン・ニレが高値になるし、木目の現われないものが好まれるときには、マカバやアサダが高値になる。また、明るい色の家具が好まれるようになると、センが高値になってくる。そのようななかで、流行にあまり関係なく、つねに高値を呼んでいるケヤキのようなものもある。

このように、名古屋市場においては、広葉樹用材もその用途や仕向け先に対応して、原木単価がつけられている。しかし、同一樹種のものがいろいろな用途に向けられているだけでなく、また、同一用途での原木単価水準が変動的であるため、きわめて解析しにくく、広葉樹用材価格はとらえにくいものになっている。

2 材の性質による価格形成

木材は工業製品とは異なって均質ではない。各原木ごとに性質が異なるだけでなく、一本の原木の中でも均質ではないのである。それだけに、良質材には高値がつき、劣質材は安値でしか取引されないのであり、原木単価にみられる差異は、針葉樹用材に比べて大きいといわれている。

針葉樹用材の場合には、「通直・無節・本末同大」⁷⁾という外的形質をそなえた材を良質材としており、径級や材長などの外的因子からも良質材を選別していることがある。それに対して、広葉樹用材の場合には、径級や材長などといった外的因子が良質材選別の手がかりになりにくいことは、前章の表4～表9からも明らかにされたところである。一本の原木のすべての部分が均質であれば、径級や材長は有力な指標になるであろうが、広葉樹用材はきわめて不均質であるだけに、材長や径級は原木単価をきめる手がかりになっていないのである。

名古屋市場で広葉樹用材を購入している人が、“それぞれの仕向け先のことを考えながら、その用途に対するの適性を、木口の様子などから判断して原木単価をきめている”と回答してくれたが、まさに、広葉樹用材の性質は一本ごとに異なっているので、それらの用材の性質を購入者が極積みされている広葉樹用材の木口などからそれぞれ読みとって、原木単価をつけているのである。

このように、広葉樹用材の原木単価の決定機構はきわめて単純なのであるが、用材そのものに個性があるので、木口だけから材の性質をすべて読みとることはきわめて難しいし、また、購入者の側にもそれぞれ個性があるので、現実につけられた原木単価には大きなちがりがみられるのである。

また、良質材とか劣質材とかいっても、それは用途と深くかかわっているだけに、広葉樹用材でも「良質」ということを一義的に規定できないのである。というのは、広葉樹用材の場合、用途が多様であり、それぞれの用途に適した材が良質材なのであって、用途が異なればまったく異なった材が良質材になることもあるからである。たとえば、センの場合には、現在では家具に利用されており、木目の白い堅い材が好まれているが、手作業で建具がつくられていたころには、ヌカ目のいわゆる“ヌカセン”が加工しやすく、狂いが少ないということでも好まれていたのであった。

このように、広葉樹用材もその性質に対応して原木単価がつけられているのであるが、材

の性質に対応した評価基準があるものの、その材の性質が外から見えないので、推測が入ることが多い。また、それに加えて、材の性質に対応した評価基準が時の推移とともに変わったりするので、広葉樹用材価格は解析しにくいものになっているのである。

おわりに

それぞれの市場で広葉樹用材の価格がつけられているが、名古屋市場での調査結果では、広葉樹用材価格も針葉樹用材価格と同じように、その用途とその材質とが考慮されながらつけられていることが知られた。そして、それとともに、広葉樹用材の場合には、用途が多様であるうえに、用途や材質の評価基準が時の流れとともに大きく変化するので、その価格もきわめて流動的にならざるを得ないことが知られた。

参考・引用文献

- 1) 林材新聞社編集局編：木材の消費層を探る 1953 林材新聞社
- 2) 上村武：木材の実際知識 1973 東洋経済新報社 pp.13~21, pp.29~38
- 3) 林業試験場編：木材工業便覧 1952 日本木材加工技術協会 pp.49~70
- 4) 宗田尚久：木——木と木工—— 1983 つかさ書房
- 5) 大北英太郎・中山哲之助：地元産広葉樹用材の流通と価格（I） 奈良・和歌山県について 1984 鳥取大学農学部演習林報告（14）
- 6) 栗村哲象・中山哲之助：大阪地方に於ける北海道産広葉樹用材の流通について 1985 鳥取大学農学部演習林報告（14）
- 7) 半田良一・森田学編著：日本林業の進路をさぐる（1）——磨丸太林業と良質材生産—— 1979 日本林業協会 p.6
- 8) 岡田勝利：北海道と雑木と私 1980 北海道林業経営協議会

On the Price of Hardwood in Nagoya district

By Satoshi SUGAHARA

Institute of Forest Management, Fac. Agric., Shinshu Univ.

Summary

By this investigation, we could point out the example of hardwood-price and the assigning mechanism of hardwood-price in Nagoya district.

- 1) *Keyaki* has the highest price among all other tree species of hardwood.
- 2) The interval between the lowest price and the highest price of each tree species is generally broad.
- 3) *Keyaki* has broadest range among all other tree species of hardwood.
- 4) The price of hardwood is assigned by the using part and the nature of wood.
- 5) The desirable hardwood is altered in the course of events.